

JA全農ウィークリー

2面

消費拡大に向けて「たまご」の知識と魅力をビジュアルにまとめて発信 (JA全農たまご(株))

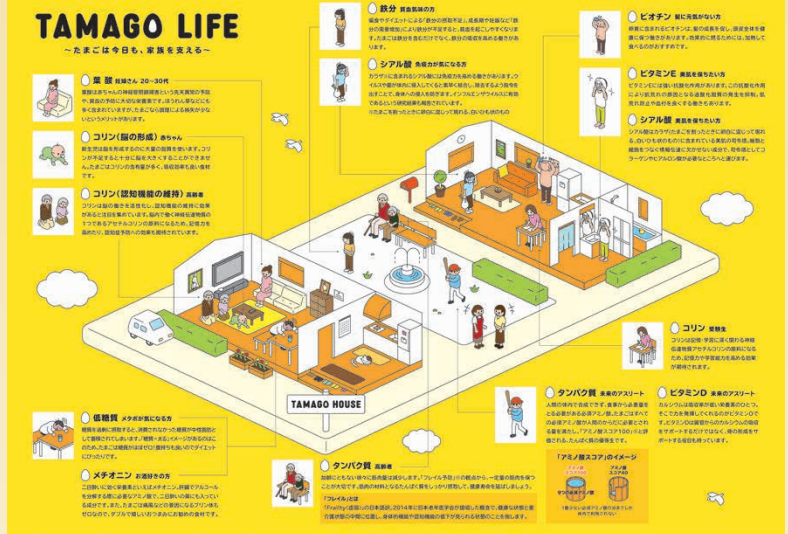
2面



県産あきたこまち精米600kgと、ジュース「のむりんご」40ケースをフードバンクあきたへ贈呈(2面)



湘南ゴールドのストレート果汁を10%使用した「湘南ゴールドサワー」を9月29日に発売(3面)



「たまご」の魅力をわかりやすいイラストでまとめた「TAMAGO LIFE」をホームページ上で公開(2面)

3 「湘南ゴールドサワー」新発売 (営業開発部)

技術水準と職員の資質向上目指し研究・業務成果を発表(営農・技術センター)

4 香港消費者に岡山県産シャインマスカット「晴王®」を紹介(岡山県本部・全農香港事務所)

「全農東北マルシェ inおきなわ」開催(全農東北プロジェクト)

5 次の週末はパエリアにしませんか? お米の新しい食べ方を提案 (米穀生産集荷対策部)

6 プロフェッショナルを追う(4) 九州広域施設事業所 福岡施設事務所 一級建築士 瀬利 聡さん

7 JAズームイン(岡山:JA晴れの国岡山)

8 「東京農林水産ファンクラブ」設立 (東京都本部)

「JA全農COUNTDOWN JAPAN」プレゼント(広報・調査部)

JAタウンショップ紹介

JA鹿児島県経済連～鹿児島の味「ふるさと便」～(鹿児島県)

Web版JA全農ウィークリーはこちらから



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

Web
限定

JA相模原市とレトルトシリーズ
3品共同開発(神奈川県本部)

「宿儺かぼちゃ」の品評会をイオンで開催(岐阜県本部)



News!



消費拡大に向けて「たまご」の魅力を発信

「たまご」の知識と魅力をビジュアルにまとめて公開

JA 全農たまご(株)



「TAMAGO CITY」

この夏「たまご」の値段が上がったというニュースを目にする機会が多かったのではないだろうか。昨冬の鳥インフルエンザ発生によって、生産基盤に大きなダメージが生じたことが原因です。市況上昇の一方で、生産者にとっては配合飼料をはじめとする生産コストの上昇が懸念される状況にあります。こうした不安定な生産環境の中で、国内消費が安定的に維持・拡大されるのが経営安定の第一歩になります。

JA全農たまご(株)は、毎日の食卓に欠かせない「たまご」の魅力をわかりやすいイラストでまとめた「TAMAGO CITY」「TAMAGO LIFE」をホームページ上で公開しました。同じ内容で作成したポスターを業界団体など鶏卵事業の関係先に広く配布し、「たまご」への関心を高めることで消費拡大を目指します。

※インフォグラフィックス…言葉や数字だけでは伝わりにくい情報を「整理」「分析」「編集」してイラスト・チャート・グラフ・表・地図などで表現したもの

「TAMAGO CITY」「TAMAGO LIFE」は
こちら



このため、鶏卵流通の国内最大手であるJA全農たまご(株)は、消費拡大を目的に「たまご」の正しい知識と魅力を視覚的に表現した「インフォグラフィックス(※)」を作成しました。「たまご」が食卓に届くまでの豆知識を「TAMAGO CITY」として、あらゆる世代に役立つ「たまご」の栄養素を「TAMAGO LIFE」としてまとめています。今後、積極的な情報発信を通して消費拡大と需給安定に貢献してまいります。

News!



「フードバンクあきた」へ県産食材を贈呈

「食」を通じて元気を届ける

秋田県本部



秋田県本部は9月3日、(一社)フードバンクあきたへ秋田県産食材を提供する贈呈式を開催しました。

この取り組みは、6月～8月に実施した秋田米販促キャンペーンの売り上げの一部をもとに行ったものです。

贈呈式では秋田県本部佐藤英一副本部長からフードバンクあきたの林多実代表理事と石井純一理事へ、県

産あきたこまち精米600kgと、ジュース「のむりんご」40ケースを贈呈しました。佐藤副本部長は「子どもたちに『おいしい秋田米』を食べ、『おいしいいりんごジュース』を飲んでもらい、健康で元気に過ごしてもらいたい」と話しました。フー



フードバンクあきた林代表理事(中央)と石井理事(左)へ県産食材を贈った佐藤副本部長(右)

ドバンクあきたの林代表理事からは「県内の子育て世代だけでなく、あらゆる年代の方から食料支援をしてほしいという声がある。有効に使わせてもらいます」と感謝の言葉をいただきました。

今回贈呈した県産食材は、社会福祉協議会などを通じて子ども食堂を運営する団体などに提供される予定です。



「湘南ゴールドサワー」新発売

JAかながわ西湘と共同開発

営業開発部



※店舗により、取り扱いがない場合があります。

「湘南ゴールド」は神奈川県農業技術センターが12年の歳月をかけた研究の末に生まれ、2003年に品種登録されたかんきつです。県の西部で以前から栽培されていた「黄金柑(ゴールデンオレンジ)」と、温州みかん「今村温州」を掛け合わせて誕生しました。

「湘南ゴールドサワー」は、果皮表面の虫害やキズの度合いなどによって生果販売に適さない「湘南ゴールド」を加工用に使われ、生産者の所得向上を目指しています。JAかながわ西湘と、「湘南ゴールド」の良さを引き出し、今までになかった果汁のサワーとしてどのように商品化するかを協議し、果汁率の高さにこだわること、「湘南ゴールド」の爽やかな香りと甘酸っぱい味わいを生かしました。

小田原市、相模原市、藤沢市、横須賀市など、神奈川県内のセブン-イレブン約700店で先行販売しています。

全農は、神奈川県産「湘南ゴールド」のストレート果汁を10%使用したお酒「湘南ゴールドサワー」をJAかながわ西湘と共同開発し、9月29日に発売しました。アルコール度数は7%、「湘南ゴールド」の特長を生かした爽やかな香りと甘酸っぱい味わいに仕上げました。



技術水準と職員の資質向上目指し研究・業務成果を発表

第70回 研究・業務発表会を開催

営農・技術センター



研究内容を説明する発表者

発表会は①各業務の相互理解と技術交流の促進②技術水準の向上と業務改善③職員の資質向上と教育研修を目的に毎年開いています。

今回は、栽培技術や生産資材の研究、検査、講習会、食品表示に関する取り組みなど、8つのテーマで発表がありました。また、耕種総合対策部スマート農業推進課からスマート農業に関する話題提供もありました。センターに会場できなかった関係部署にはWebで配信しました。

内容ごとに事業反映に向けた展開が整理され、今後の取り組みが期待される発表会となりました。

営農・技術センターは8月31日、神奈川県平塚市にある同センターで「第70回研究・業務発表会」を開きました。

発表テーマ

発表部署

タマネギの直播技術による低コスト・省力化に向けた取り組み	農産物商品開発室 宮崎 航
BB肥料の固結問題に対する取り組み ～水分検知紙によるリスク評価とタルクを活用した固結軽減策～	肥料研究室 尾崎 洋輔
麦類のかび毒デオキシニバレノール(DON)の検査に関する取り組み	残留農薬検査室 北村 禎
栽培技術講習会の取り組みについて	管理・講習課 古屋 昌義
段ボール箱の適正包装化に関する取り組み ～積載形態の安全率の再検証について～	生産資材研究室 古屋 拓真
軽油の色相と品質の相関関係について	エネルギー研究室 内野 智大
知ったら楽しい!? 食品表示	品質・表示管理室 竹内 愛美
ザルビオフィールドマネージャーのAIアルゴリズム開発における取り組み	農業研究室 山下 将武
【話題提供】全農におけるスマート農業の取り組み	スマート農業推進課 池町 健太

News!



香港消費者に岡山県産シャインマスカット「晴王®」を紹介

ライブコマース企画第3弾

岡山県本部・全農香港事務所

収穫方法を説明する井上さん



今回はJA晴れの岡山フルーツフラワーセクター管内の圃場から、県産シャインマスカット「晴王」を香港の消費者に生配信で紹介しました。出演いただいた「船穂ぶどう部会」の井上英幸さんから、「晴王」の栽培方法や、おいしい「晴王」の見分け方などを説明していただきました。MCによる収穫体験も行い、香港でも人気のある「晴王」の生産現場の映像を直接お届けすることができました。

岡山県本部と全農香港事務所は9月5日、全農香港事務所のライブコマース企画第3弾として、香港の消費者へ岡山県産シャインマスカット「晴王®」を紹介しました。

た。中秋節の贈答用として、化粧箱に入った商品も紹介しました。

全農香港事務所のECサイトでは、ライブ配信時に紹介された割引コードの利用が多数ありました。配信直後には香港消費者から「晴王」に対する質問を受けることもありました。

県産農畜産物のおいしさをさらに広められるよう、今後取り組みを進めていきます。



岡山県産限定の特秀品「晴王®」

ライブ配信した動画はこちら



News!



「全農東北マルシェ inおきなわ」開催

東北の魅力伝える

全農東北プロジェクト

全農東北プロジェクトは9月11、12日、沖縄県糸満市にあるJAおきなわファーマーズマーケットいとまん「うまんちゅ市場」で「全農東北マルシェ」を開催しました。

マルシェには東北6県

の特産野菜や果物、農産加工品を集め、両日、多数の地元の方にご来店いただきました。生産品目や食文化の違いから「沖縄では手に入らない商品もたくさんあり、選ぶのが楽しい!」「東北のおいしそうな物を久しぶりに見ました」など、訪れたお客さまの反響も上々

でした。

緊急事態宣言の発令によりプロジェクトメンバーは現地入りができず、店舗スタッフの全面協力を得て、東北の観光地の紹介パンフレットの配布や、東北六県絆米のPRを行い「東北を訪れたい」と感じていただけるようなマルシェとなりました。

ファーマーズマーケットいとまん「うまんちゅ市場」



東北6県の特産野菜や果物、加工品が並んだマルシェ



次の週末はパエリアにしませんか？

フライパンひとつでお手軽お米料理！ 「週末はパエリアの日」

全農は、国産米の消費拡大の二環として、「パエリア」の普及拡大に取り組んでいます。【米穀生産集荷対策部】



パエリアはスペイン発祥の米料理です。家庭で作るの大変そう...

というイメージがあるかもしれませんが、実は簡単に作ることができます。

フライパン1つで カンタン調理

パエリア鍋がなくても、フライパン1つで手軽に調理ができます。具材を炒め、精米を洗わずそのまま入れて、炊き上げるだけ。時間も手間も掛かりません。

せん。

食材も自由

お好みの食材で、さまざまなバリエーションが楽しめます。市販のパエリアの素を使えば、本格的なパエリアも手軽に再現できます。

オリジナルレシピを 開発し、HPで公開

全農は特別なスパイスを使わなくても、ご家庭にある一般的な調味料や、ニンジン、ハクサイ、油揚げなど身近な食材を使用して、簡単に調理できるオリジナルレシピを開発しました。

また、より本格的なパエリアを楽しみたい方

NORICE NOLIFE

ノーライスノーライフプロジェクト

他にもお米の魅力発信中！
詳しくはポータルサイトへ



向けに、ハウス食品(株)とタイアップし「スパイスクッキングバルメニュー(パエリア)」を使ったレシピも開発しました。全農は、国産米の消費拡大を目的に、今後さまざまな形でお米の新しい食べ方を提案し、魅力を発信していきます。

オリジナルパッケージの「農協ごはん」プレゼント実施中

JAグループは9月22日、「『JAグループお米消費拡大アンバサダー』任命式&しあわせおすそ分け！キャンペーン記者発表会」を実施しました。発表会にはお米が大好きな松村沙友理さんに登壇いただき、乃木坂46ご卒業祝いの“一生分のお米”贈呈式を実施するとともに、任命式とアンバサダー初仕事となる「しあわせおすそ分け！お米4600名プレゼントキャンペーン」告知を行いました。

全農はこのキャンペーンに協力し、松村さん直筆デザインによるオリジナルパッケージの「農協ごはん」を制作。農協ごはんは、全農グループのJA全農ラドファ(株)が製造しているこだわりのパックごはんです。今回は、このオリジナルパッケージの農協ごはんをプレゼントします。



農協ごはんまたは炊飯器が当たるキャンペーンを実施中

詳細はこちら

URL: https://www.asahi.com/ads/okome_osusowake/



プロフェッショナルを追う(4)

九州広域施設事業所福岡施設事務所一級建築士 瀬利 聡さん

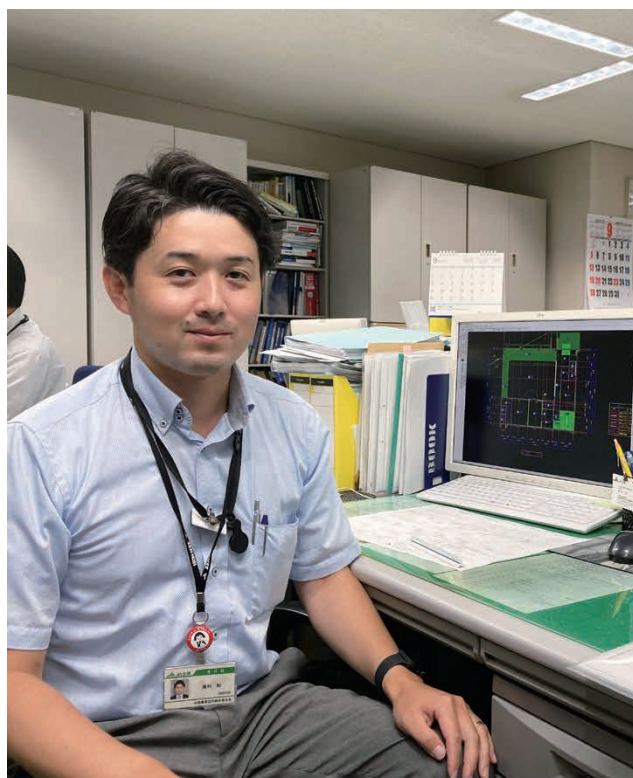
生産現場での収穫から消費者の食卓へ 産地と流通を支える農業インフラの建設

全農グループには専門的な業務に従事している職員がいます。今回は、施設農住部九州広域施設事業所福岡施設事務所所属する一級建築士、瀬利聡さんに迫ります。【広報・調査部】

瀬利さんの仕事内容について教えてください。

九州広域施設事業所は福岡・長崎・大分・佐賀に出先事務所

を持ち、JAから依頼を受けてライスセンターや選果場、パックセンターなどあらゆる農畜産物の集出荷施設の設計・監理を行っています



ます。その中で私は福岡を担当しています。

全農の施設事業は「施主代行」という系統組織ならではの事業方式で対応しているため、私は設計図を描くだけでなく、依頼主（施主）であるJAに代わって、施設建設計画への支援や建築候補地の調査、施工会社の選定や竣工までの工程管理など、計画から引き渡し・アフター対応に至るまでの業務全般を担当しています。

全農に入会したきっかけは？

実家が農家だったため、大学で建築を学ぶ頃から「農業と建築」をどう結び付けるかを考えていました。当時は全農に施設部門があるとは知らず、民間企業に就職しました。構造設計という仕

事をしていたのですが、実際に建築現場監理に赴き、計画から竣工まで幅広く対応する仕事がしたいと考えていた頃、全農と出会い、入会に至りました。

全農が自ら施設事業に取り組む意義はどこにあると感じますか？

生産者、JAに近い立場として一緒に建築に取り組める所です。施設建築は計画から設計までも2、3年、竣工まで4、5年かかることもある一大事業です。計画段階でJAから何度もやり直しの相談を受けることも珍しくありません。コストを抑えつつどれだけ利便性を高められるか、「農業に貢献する」という思いを共にするからこそ、意見を交えてより良い施設を目指せます。また、農業施設という特殊な建築事例を全国各地で担うことで蓄積されているノウハウも全農の大きな強みです。

入会后、生産現場から消費者にどのように農産物が届くのかを自分なりに勉強してきましたが、農業施設は産地と流通を支える農業インフラの機能を果たしていると思います。プレッシャーを感じることがありますが、

完成した施設が順調に稼働し、人が働く姿を見るのはとてもうれしいですね。

今後の目標は？

九州では近年豪雨被害が多発しており、施設の災害対策強化が求められています。JAとして、生産者から出荷される農産物を決して無駄にはできません。青果物を保管する冷蔵庫では停電対策などが必須となります。今後も知見を積み重ねて、より災害に強い施設の設計を進めたいと考えています。知見を広げるため、これまで担当していなかった畜産系の施設にも関わっていきたいです。



建築現場の検査に立ち会う瀬利さん



直売所でJA産「きぬむすめ」などを特価で販売し、米の消費拡大をPR

JA晴れの国岡山は、毎月15日(いいこめの日)を「Happy Rice う米day(ハッピーライスウマイデー)」と定め、コロナ禍で米の需要が落ち込む中、全国最大規模の組合員数や店舗網を生かし、米の消費・販売拡大、地産地消の推進に力を入れています。特に農業振興の応援団である准組合員を中心に組合員の買い

支えの輪を広げ、地元のスーパーとも連携して販売拡大を進めます。

元気玄米宣言で生産者と消費者に元気届ける

合併から1年を迎え、広域合併のメリットを生かし、生産者と消費者の双方に元気を届けようと、組合員とJA役職員の思いを「元気玄米宣言」として一つに結集。既存の地域環境を守る循環型農業によって作られる「里海米」の他、JA管内産の米を玄米や精米で独自製品化し、多彩なPR活動を展開しながら販売しています。

「元気玄米宣言」の一環である「Happy Rice う

米day」は、家庭で食べる米の量を1日に1杯、1食でも増やし、家族みんなが元気に笑顔になってほしいとの思いを込め、15日(いいこめの日)に設定。JA直売所やオンラインショップでの特価販売の他、玄米の炊き方や栄養価、レシピを伝えるリーフレットの配布、米のお試しパック進呈などを通じて、JA産米の認知度を高めま

す。

直販で鮮度安心感 値ごろ感を追求

近年の健康志向の高まりを受け、販売を強化した「元気玄米」は、集荷から販売までJAで一貫して手掛けた単一品種の1等米だけを取り扱い、鮮度や安心感、値頃

感を追求。全量を色彩選別機にかけて紙袋に統一シールを貼り、JA直売所・支店などで販売しています。

また、精米を求める消費者向けに、新たに「農協精米」としてブランド化。JA産米を玄米で低温保管し、受注後に精米します。つきたての風味や香りを5kgパッケージに詰め、早ければ翌日に主なJA直売所に並びます。銘柄には根強い人気がある「コシヒカリ」「あきたこまち」に加え、(一財)日本



集荷から販売までJAで一貫して手掛ける「元気玄米」

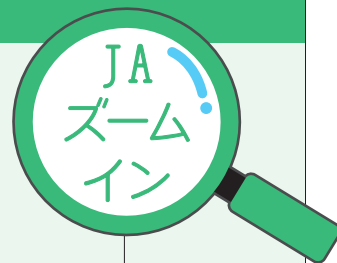
また、精米を求める消費者向けに、新たに「農協精米」としてブランド化。JA産米を玄米で低温保管し、受注後に精米します。つきたての風味や香りを5kgパッケージに詰め、早ければ翌日に主なJA直売所に並びます。銘柄には根強い人気がある「コシヒカリ」「あきたこまち」に加え、(一財)日本



頑張ろう三唱で「元気玄米宣言」をするJA役職員ら

穀物検定協会の食味ランキングで5年連続最高位「特A」を取得した「きぬむすめ」をそろえています。

今後は、多様な販売チャネルを活用した消費者への直接販売を拡大し、スケールメリットを生かした価格設定で独自製品の定着を目指す方針です。



毎月15日は「Happy Rice う米day」 「元気玄米」「里海米」で消費拡大を

JA晴れの国岡山(岡山県)



概要 令和3年3月31日現在
(前年度の事業年度末実績)

正組合員数	9万5202人
准組合員数	5万254人
職員数	3258人
販売品取扱高	251億4千万円
購買品取扱高	213億7千万円
貯金残高	1兆3325億3千万円
長期共済保有高	3兆7416億5千万円
主な農畜産物	ブドウ、桃、米
(あきたこまち、コシヒカリ、きぬむすめ、アケボノ)	
牛肉、野菜・花き(トマト、ゴボウ、ダイコン、キュウリ、ナス、アスパラガス、スイートピー、リンドウ)、黒大豆	

*主な農畜産物は2020.06発行のJA全農ウィークリーに準ずる。*その他数値は、当JAホームページより参照。

「東京農林水産ファンクラブ」設立

東京の農林水産業を多くの人にPR

東京都本部は、(公財)東京都農林水産振興財団が設立した「東京農林水産ファンクラブ」に賛同し、東京の農林水産業の魅力や価値を発信していきます。【東京都本部】

「東京農林水産ファンクラブ」は、東京の農林水産業の魅力や、東京の新鮮な野菜や海産物のおいしさを広く知っていただくために設立されたコミュニティです。たくさんの方にファンになってもらえるよう、マルシェの出店や会員限定イベントなどを展開し、東京の農林水産がもっと好きになる情報などを提供します。

東京の農林水産業を応援してくれる方であれば、どなたでも参加することができます。ファンクラブの入会金・年会費は無料です。

詳細は、東京都本部 営農販売課(☎042-528-1349)または、(公財)東京都農林水産振興財団(☎042-528-0722)まで。



（東京農林水産ファンクラブ公式サイト）
会員登録はこちらから



全農 ZEN-NOH

COUNTDOWN JAPAN リスナープレゼント

毎週土曜日13時~ TOKYO FM系列38局ネット

放送日の10月9日は「仙台牛の日」。宮城県が全国に誇るブランド牛「仙台牛」は、黒毛和種であることや、肉質等級が最高ランクの「A5」「B5」に格付けされないことと名乗れないなど、銘柄基準の厳しいブランド和牛です。

プレゼントはもちろん仙台牛。JAタウン掲載商品から、口の中でとろけ出すような食感と、濃厚でありながらほんのりと甘味を感じられる味わいが特長の「肉質最高A5ランク仙台牛肩ロースすき焼きしゃぶしゃぶ500g」を3名様に。そして「仙台牛の日」を記念して、サーロインを使用した、「10月9日・仙台牛サーロインステーキスペシャルセット(300g×2枚)」を19名様にプレゼントします。

また、JAタウンギフトカード4500円分を1名様にプレゼントします。【広報・調査部】



応募は番組ホームページで受付中です。



応募締め切りは10月9日の放送でランキング1位の曲が発表されるまでです。



仙台牛はこちらから購入いただけます。

JAタウンショップ名

タウンショップみやぎ



JA全農のインターネットショッピングモール
JAタウン ショップ紹介

JA鹿児島県経済連
～鹿児島県の味「ふるさと便」～

安納芋は、鹿児島県種子島の安納地区が発祥と言われているサツマイモで、種子島産は甘みが強く、しっとりとした食感が特長です。

一般的に「安納芋」と呼ばれている、紅色の皮で肉質が黄金色の「安納紅」と、安納芋の突然変異で皮の色が黄色の「安納こがね」をセットにしました。

徹底した栽培基準のもと生産される最高品質の安納芋を、この秋ぜひご堪能ください。



種子島産 安納いも食べ比べセット4kg
「ふるさと便」...4180円(税込み)

ご注文は
こちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは ☐ shop@ja-town1.com



『JA全農トピックス』の
ツイッターはこちら



私たち全農グループは、
生産者と消費者を 安心で結ぶ懸け橋
になります。